

## 5-19 東海地方におけるラドン観測 (XI)

### Radon Observation in the Tokai District (XI)

東京大学理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

前報<sup>1)</sup>にひきつづき、東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1992年11月~1993年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す竜洋(RYO)、吉田(YSD)、御前崎(OMZ)の3地点である。第2図は各観測点における、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均の変動で、縦軸はこの期間の平均値に対する相対値である。

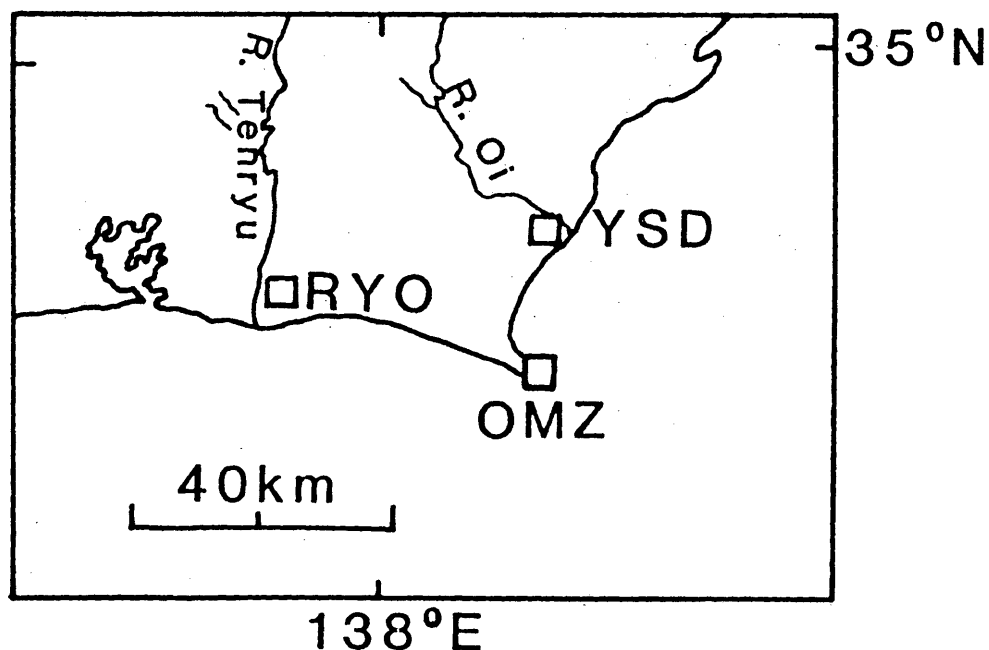
RYOでは1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響と解釈される<sup>1)</sup>。

YSDでは、ラドン濃度は年間を通じてほぼ一定である。

OMZでは大きな年周変化がみられる。これは主に、降雨に対するゆっくりとしたレスポンスであると考えられる。

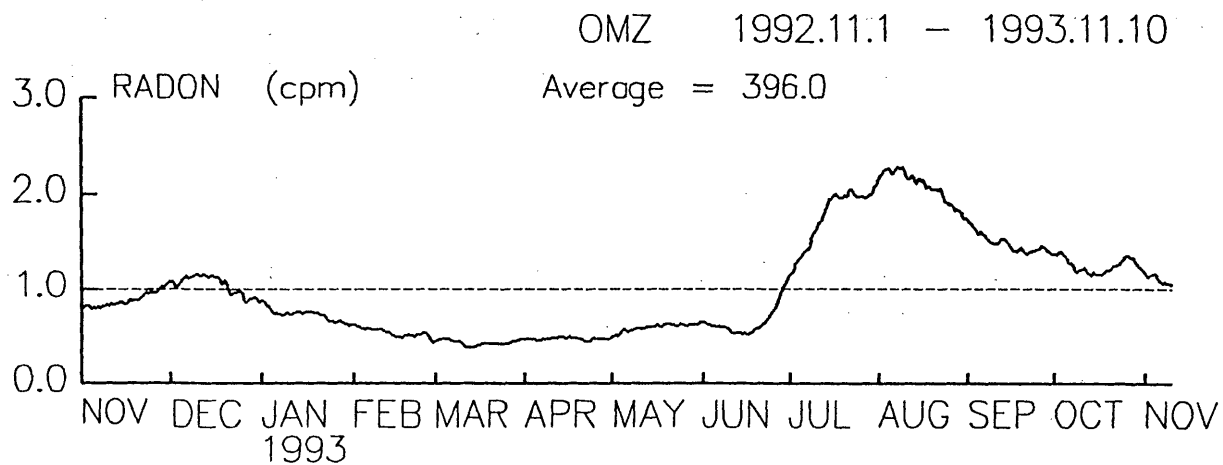
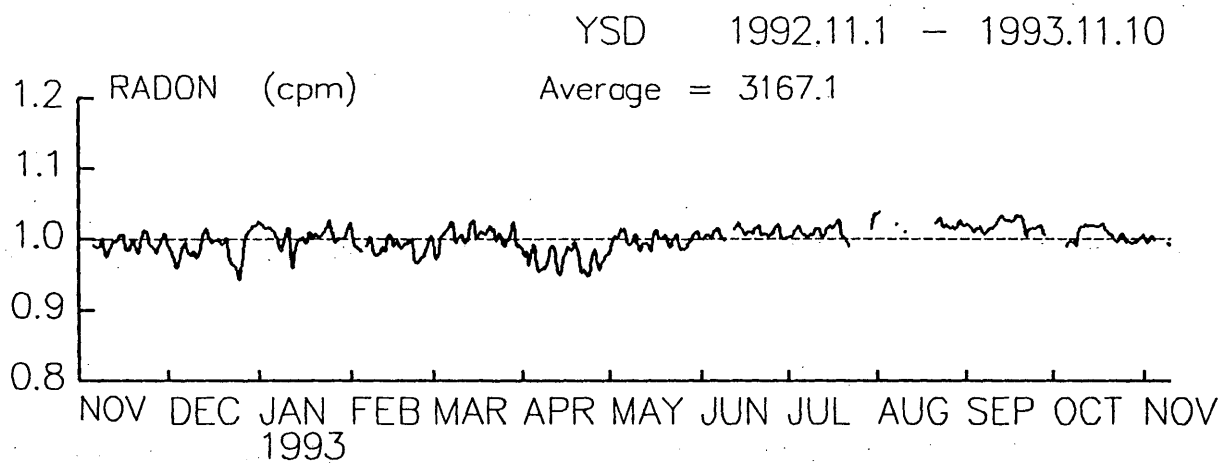
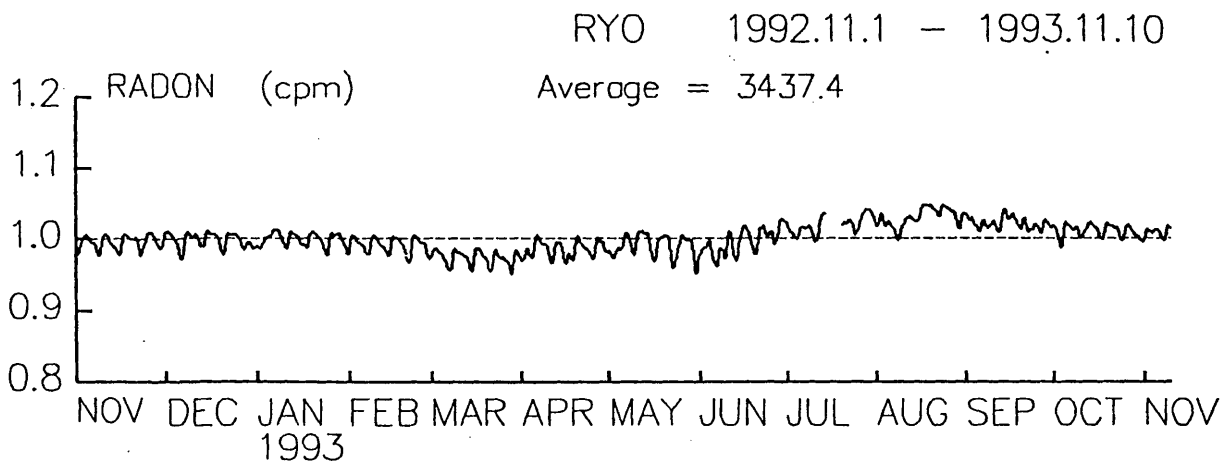
#### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：東海地方におけるラドン観測(X)，連絡会報，49(1992)，399-402.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district.



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎) における地下水中のラドン濃度の変化 (1992年11月~1993年11月)

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki). (November 1992–November 1993).